



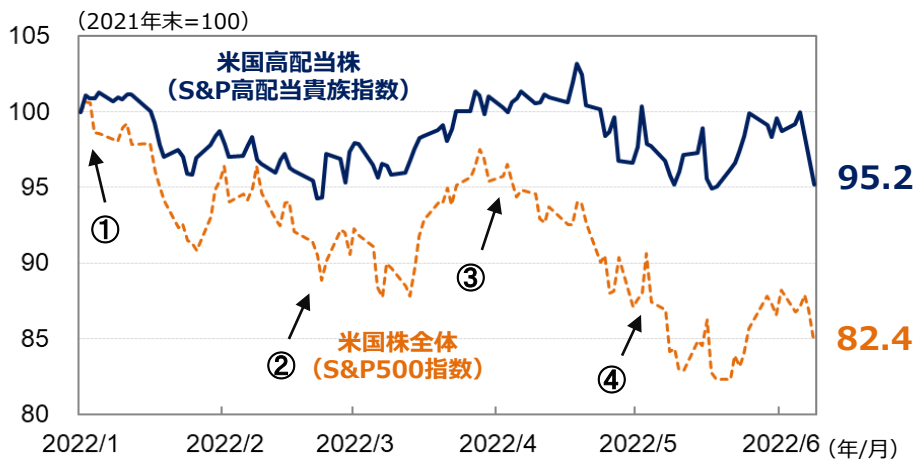
2022年初来の米国高配当株は米国株全体を上回って推移

- 2022年初来の米国株式市場は、ウクライナ危機や利上げを巡る不透明感などから変動が大きい相場となっています。そのような環境下、安定的な利回りを求める動きから、米国高配当株（S&P高配当貴族指数）は底堅い動きとなっています。
- 長期で見ても、相対的に高い配当を積み上げたこと等により、米国高配当株は米国株全体（S&P500指数）と比較してパフォーマンスが良好です。

『S&P高配当貴族指数』とは？

米国の時価総額の約90%をカバーしているS&Pコンポジット1500指数のうち、過去20年以上連続して増配を続けている銘柄から構成されている米国高配当株の代表的な指数です。

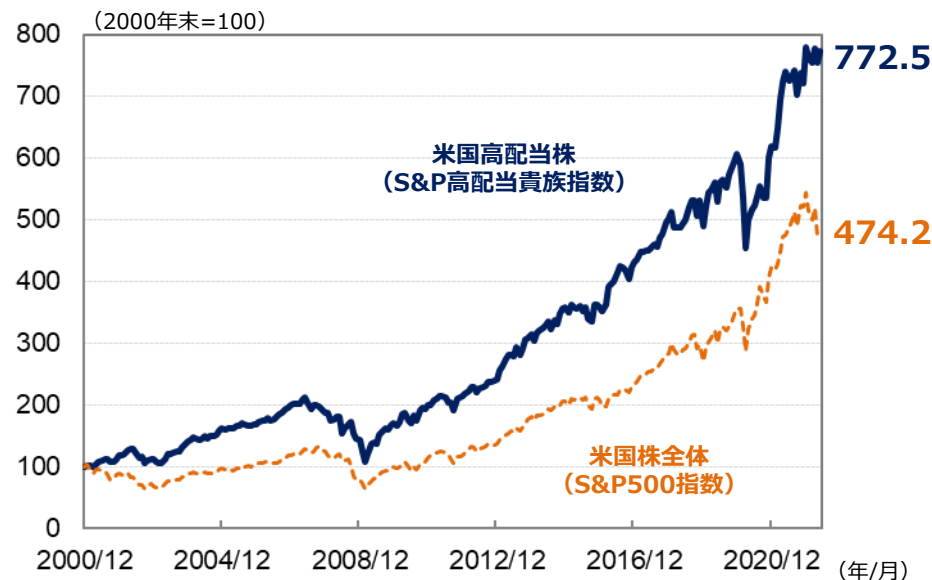
【短期】 米国高配当株と米国株全体の推移



- ① FOMC議事録：想定よりも早期に速いペースでの利上げの可能性を示唆
- ② ロシアがウクライナへの侵攻開始
- ③ FOMC議事録：5月会合で資産圧縮プロセスを開始する可能性を示唆
- ④ FOMCが0.5%の利上げを決定

(出所) ブルームバーグ (期間) 2022年1月初～2022年6月10日
※各指数は配当込み

【長期】 米国高配当株と米国株全体の推移



(出所) ブルームバーグ (期間) 2000年12月末～2022年5月末
※各指数は配当込み ※月次データ

短期：不安定な相場環境下、安定的な利回り追求の動きから米国高配当株は底堅い推移
長期：配当の積み上げ等により米国高配当株は米国株全体と比較して良好なパフォーマンス

次号は米国企業の株主還元策や「配当」に着目した米国株ETFの資金フローをご紹介します

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレートン・ジャパン株式会社（以下「当社」）が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したのですが、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することをご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレートン・ジャパン株式会社（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号）はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。